



2019年 6月号 水無

川島町中山 1733-2 ☎297-3000

HP <http://tonegawayoutien.jp/>

「学び」の原点はこぐまサークルに 園長 笛木 哲

私は、「こぐまサークル」の活動が大好きです。確かな指導力を持った保育者が、子どもが興味をもち、自ら動き出す仕掛けのある活動を提供します。描いて、作って、動かして、遊んで…と様々な経験の中で、知らず知らずのうちに感性を鍛えます。だから、子どもは嬉々として活動に没頭します。親子で、子ども同士で、親同士が同じ空間で学ぶことで、様々な違いを実感します。こうして、皆と一緒に「学ぶ」ことの楽しさを共有します。

私の一番のお気に入りには、「新聞紙で遊ぼう」です。身体を使ったダイナミックで、どこまでも発展していく活動というだけではありません。親と子が、とびきりの笑顔で楽しむ姿を見つけることのできる活動だからです。幼児期の子どもにとっての「学び」は、「楽しさ」であり「笑顔いっぱい」でなくてはなりません。



「学ぶこと」が「楽しくなくなった」のは、いつの頃だったのでしょうか？

3歳までの子どもと、共に過ごすことの大切さ

生後0ヶ月から1歳までの乳児期は、1年間で、体重が約3倍になります。一人にされると不きげんになって泣き、抱かれてあやされると泣きやみます。6～7か月にもなると、母親の

姿を探し、母親の顔を見てほほ笑み、「アー」「ウー」と声を出します。親の腕の中で抱かれるしかなかった子が、寝返りを始めると、おすわり、はいはい、つかまり立ち、ひとり歩き…と、驚異的に身体能力を伸ばします。

生後1年から6歳までの幼児期は、乳児期に比べ身体発育の速度はゆるやかになりますが、脳の発達が急速に進み、喜怒哀楽といった感情が豊かになり、言語活動も活発になります。会話の楽しみが家庭に笑顔をもたらします。この喜びは子育てをする親だけに与えられた特権であり、最上級の幸せの一つです。

このように乳幼児期は、人生の中で最も成長が著しい時期です。だから一日たりとも目が離せません。昨日と同じ姿はもう二度と見ることができないのですから。

また、2～3歳ごろまでに、赤ちゃんと親(特に母親)の間に心の絆が生まれると言われていています。この時期、母親が乳幼児と共に過ごし、愛着を深めることは、とても大切なことです。もし乳幼児期に入院などで長期にわたる母子分離を体験すると、母子関係に深刻な問題が生じる場合があります。

3歳までに、母親と密度の濃い触れ合いをし、信頼関係を育んだ子は、大きくなっても心を安定させ、自信をもちます。3歳までのお子さんをおもちの皆さんは、親と子どもの絆を確認できるような時間をたくさんもってください。お子さんが、安心して過ごせる環境を整えてください。そして、そんな日々の生活の中で、大切なお子さんの成長の姿をたくさん見つけてください。

